

## 4-(3) 「三ガク都のシンカ」について

本資料は、令和7年度第4回松本「シンカ」推進会議での意見を踏まえ、「三ガク都がシンカした姿」を3つの視点に整理したものです。

今後、「三ガク都のシンカ」に関する共通認識の形成を図るとともに、基本構想2040の検討に当たり、「三ガク都がどこまでシンカしたか」を振り返るための土台として活用することを目的に、議論を深めるための論点整理として作成しました。

三ガク都



が「シンカ」した姿とは

視点1

浸透

「非日常」から「日常」へ

<三ガク都が特別なものではなく、暮らしの中に息づいている状態>

- (主な意見) ・三ガク都の価値は、“特別なイベント” “観光” “一部の人だけの活動” としてではなく、市民の日常生活の中に溶け込んでいる状態ではないか。
- ・主体的な活動が生まれ、学びが自然と日常の中ににじみ出ている状態
  - ・災害が起きた時だけその重要性を認識するのではなく、日常の中で自然との関わりを意識し続けることが重要

➔ (問い) 三ガク都は、暮らしの中に根付いているか？

視点2

連携

「個別」から「つながり」へ

<岳・楽・学が個別に存在し発展するだけでなく、相互に結びついている状態>

- (主な意見) ・世代間の越境、地域間の越境、3つの「ガク」の越境などにより、「面」としての展開が期待できる。
- ・「岳」と「楽」。山に登ることも一つの文化であり、豊かな自然とそれを享受する文化が結びついている。
  - ・3つの『ガク』は、いずれか1つを取り上げると、それが「主」となり他の2つが「従」になる側面もある。単体ではなく掛け合わせるという発想

➔ (問い) 岳・楽・学は、それぞれを超えてつながっているか？

視点3

創造

「守る」から「つくる」へ

<受け継いできた自然・文化・学びを土台に、新しい価値が生まれている状態>

- (主な意見) ・山を単に「見るもの」にとどめず、適度に活用し、資源としての恵みを感じられるようにすることが重要
- ・学びは「楽しさ(エンジョイ)」を通じて深まる。松本でしかできない学びをしっかりと位置付ける必要がある。
  - ・地域資源を活用しながら、新たな価値や魅力を創出していくことが重要

➔ (問い) 三ガク都を土台として、新たな価値や魅力が生み出されているか？